

東京都町田市立鶴川第二中学校演劇部 「二〇〇四年度公演」 脚本

人
間
失
角
2
0
0
4

作 町田市立鶴川第二中学校 福島 康夫

人間失角 2004

登場人物

に組その1 (への1)	…	どの組とも争いたくない、平和を強く願う、純真な性格。
に組その2 (への2)	…	にの1と共に平和を強く願い、にの1を助ける。
に組その3 (への3)	…	一見平和に見える毎日に、不満や疑問を抱き、ついに…。
に組その4 (への4)	…	にの5とけんかしたりうわさ話をする平凡な男子。
に組その5 (への5)	…	にの4と実は仲良しの普通の男子。
イ組その1 (イの1)	…	イの2をいつも心配する頼りになる男子。
イ組その2 (イの2)	…	ア組にいつもいじめられている気の弱い男子。
パ組その1 (パの1)	…	パの2を守るためにいつも怒っている、人のいい女子。
パ組その2 (パの2)	…	ア組にいつもいじめられる、心優しい女子。
ア組その1 (アの1)	…	強いア組の男子のリーダー。自信とうぬぼれが強い。
ア組その2 (アの2)	…	強いア組の女子を代表する存在。高慢で意地が悪い。
キャスター	…	TVのニュースキャスター。
将棋を指す人A	…	将棋部の生意気な新入部員。
将棋を指す人B	…	将棋部の先輩。

ニュースのテーマ。キャスターにピンスポ。

キャスター

「こんばんは。ニュースをお伝えします。昨日、インドが突然、核実験を行いました。アメリカを始めとした各国から強い抗議や非難がインドに寄せられていきます。わがイッポンでも総理大臣だけでなく、広崎・長島の両市長から、インドン大使館に抗議文が届けられました。これに対しインドン側は、「歴史的出来事である。これでわがインドンも、軍事大国の一つとして認められることになるだろう。」と強気の姿勢を崩していません。」

にの1 信じられない！どうしてこんなことをするのかしら！

にの2 本当よねえ。こんな平和な世界を、どうしてかき乱すのかしら。

にの1 これで、平和のバランスが崩れなければいいけど…。

にの2 平和のバランスって？

ううん、なんでもない…。

キャスター 「臨時ニュースです。昨日のインドンに続いて、パキスタンでも核実験が行わ

れた模様です。今回も、アメリカをはじめとした各国の平和団体がインドンとパキスタンの両国大使館前で抗議行動を行いました。しかしパキスタン側は「立ち上がるのはインドンだけではない。我々パキスタン人にも勇気があることを全世界にはつきりと示したのだ。」と強気の姿勢を崩していません。」

イの1 走って登場。イの2 それを追ってくる。(

イの1 ア組のやつら、今度こそ許せない。

イの2 やめてくれよ。ボクのためにそんなあ…。

イの1 そんなこと言ってるから、いつまでたってもア組のやつらが嫌がらせをやめないんだ。

イの2 ボクだってやめてくれって言っているんだ。でも…。

イの1 でもやめないんだろ！面白がつて、もつとやってくるんだろ！

イの2 それはそうなんだけど…でも、きつとボクの言い方が甘いんだよ。今度こそ、

きつぱりと言つてやるよ。

イの1 なんて言うんだい？「やめてください！お願いします！」って泣いて言うのか！

イの2 ち、違うよ。きつぱりと…。

イの1 きつぱりと？

イの2 (悲鳴のように)に、二度とボクのことを馬鹿にするな！

イの1 (大笑いして)それだけ？

イの2 今度ボクを馬鹿にするような態度をとつたら…。

イの1 (からかうように)とつたら？

イの2 今度ボクを馬鹿にするような態度をとつたら…(弱気で)どうしよう？

パの1 (パの1 走って登場。パの2 それを追ってくる。)

パの2 ねえ、お願いだから落ち着いて！ねえつてば！

パの1 これが落ち着いていられると思う？

パの2

だって、これはあなたのことじゃないし。

パの1

あたしのことじゃないから落ち着いていられないのよ！それともなあに？私に

は関係ないって言うの？

パの2

そうじゃないけど……わたしのことなんかで、あなたに迷惑かけたくないし……。

パの1

そうやって人のいいことばかり言っているから、ア組の子たちに馬鹿にされるのよ！

パの2

でもね、馬鹿にされるような失敗をする私もいけないのかもしれないし……。

パの1

あのねえ、そういうところがあなたのいいところなんだけど、だからといって、ア組の連中に言われ放題ってことはないでしょう？

パの2

それはそうだけ……。

パの1

いい加減何とかしないと、あいつらつけあがるばかりだよ！

パの2

うん……でもどうしたらいいのか……。

パの1

あたしに、いい考えがあるんだ。まあ、任せておいて！

パの2

大丈夫？危なくないの？

パの1

平気よ。今までさんざん好き勝手にしてきたア組の連中に、今度こそ思い知らせ

てやるわ、強いのは自分たちだけじゃないってね。

（に組の教室。平和な光景……のように見える。チャイムの音）

（突然言い争いの声。男子が二人でつかみあいのけんかになりそう。）

パの1

やめて！どうしたっていうの？けんかするなんていけないわ！小さいころから友達と仲良くっていわれているでしょう？けんかは結局両方が悪いんだから、

にの4 お互いに謝りなさいよ！先生に見つかったらどうするの！

にの5 （ふてくされながら）わかったよ！俺が悪かったよ！

にの1 （横を向いて吐き捨てるように）いいよ！俺も言い過ぎたよ！

にの1 はい、じゃあ仲直りの握手。（強引に手を握らせる）

にの1 （2人はパツと手を放すと、ぶいっつと顔を背けてどこかへ行ってしまった。）

にの3 あーよかった。先生に見つかったら、大変なことになるところだった。

にの3 （離れたところで）

にの3 握手したからって、仲直りできる訳ないじゃん。子供のころから、相手が

謝ったら「いいよ」って許してやる習慣がついているのも、恐ろしい話だね。

「けんかはいけません」もめたらすぐに謝りなさい」「相手が謝ったら、

許してあげなさい」こんなことをやっていて、本当にいいと思ってるの？

どんな大人が出来上がるのか、ちゃんと考えているのかなあ？

（にの1 と にの2 が教室で話している。）

にの2 この頃、校則のことで何だかすつきりしないんだ…。

にの1 えっ、あなたも？私も、ずっと気になっていることがあるんだ。

にの2 もしかしたら、ケンカのこと？

にの1 そう。「校則第78条 ケンカに関する項目」。生徒手帳を読み上げる。（

第5項 暴力は絶対に振るわないこと。

第6項 たとえ相手が先に暴力を振るつたとしても、やり返した時は、いかなる事情があつても同罪とする。

第7項 ケンカの現場に出会つたら、間に入って止めるか、すぐに先生に知らせること。何もしなかつた時は、同罪とする。

第8項 以上の項目を破つた場合には、1週間から1カ月の停学とする。
ふうふう。(大きくため息をつく)

にの2 中学に入学したときは、ごく当たり前のどこにでもある校則だと思つたんだ。

にの1 でも最近なんか変だなあ、と思い始めた？
そうなの。だって、よく考えたら私たちって、小さいときから人と争うことを禁止されてきたでしょう？

にの2 そういえばそうよねえ。「仲良く、平等に、譲り合つて……」ってね。
にの1 もともと私たちって、昔より兄弟姉妹が少ないし、近所の友達と遊ぶこともあ

にの2 まりなかつたでしょ？
うん、私なんて一人っ子だし、近所にも同じくらいの年の子がいなかったこと

にの1 もあつて、全然なかつたよ。
おばあちゃんがよく「お前のところはお兄ちゃんと二人きょうだいでも、親が

にの2 甘やかしてひとりっ子が二人出来上がっちゃったねえ。「って言っていたんだ。
じゃあ私たちって、いつケンカしてきたんだらう？

（突然にの3が現れて）

にの3 あたしたちはまともにケンカしてきてないんだよ。

にの1 えっ！（振り返って）あーびっくりした。いつから聞いていたの？

にの2 盗み聞きなんて趣味ワルイ。

にの3 そんなつもりはなかったんだけど、忘れ物を取りに来たら、声が聞こえたものだから……。

にの1 それで、「まともにケンカしてきてない」ってどういう意味？

にの3 あたしさあ、両親が働いていたから、1才になる前から保育園に行っていたんだ。朝から夕方までいるから、ケンカの一つや二つは当たり前だったんだけど、その時保育さんに言われていたことが、うちの校則と同じなんだよね。

にの2 同じって？

にの3 「ケンカしちやいけません」「ブランコは順番こ」「ごめんなさい」「いいよ」「みんな仲良く」「ぶつちやだめ」「かんじゃだめ」……おんなじでしょ？
にの1 そういわれればそうね。

にの3 でもね、保育園のときは「ケンカするのが当たり前」っていう考えがあるだけ、まだマシなわけ。うちの学校は、ケンカしようという感情そのものを否定しているんだから、無理があるよね。だいたい人間が二人いれば、二通りの考えがあるわけで、意見の食い違いやぶつかり合いがあるのが自然なのに、それを抑え続けることのほうがよっぽどおかしいと思うんだ。納得していないのに、我慢し続けていると、不満がどんどんたまってきて、いつか抑え切れなくなっ

にの2
いろいろなところがほころび始めて、最後にはキレてしまふんじゃないかな。

にの3
それってあなた自身のこと？
あたし自身のことでもあるし、ほかの誰のことでもあると思う。いつ、どこで、

誰がキレてもおかしくないと思う。

にの1
そうかしら：私はそこまで感じたことないけど：。

(転 換)

(アの1・アの2がたむろしているところにイの2が通りかかる)

(一瞬おびえたように立ち止まり、その後決心したように近づいていく)

(行く手をふさぐ)

(横を通り抜けようとする)

(一歩動いて、さらに行く手をふさぐ)

(文句を言おうとするが、結局あきらめて戻ろうとする)

(イの2の肩に手をかけて) 待てよ。

何か用(アの1に)にらまれて)：ですか？

(指さして笑いながら) 同じ学年の友達に向かって、「ですか？」だって！

何の用だよ！

何の用だよ？

いいがかりなら、や、やめる！

やめる？

や、やめてください。

アの1 あービックリした。はじめ「やめる！」って聞こえちゃったよ。なあ？

アの2 あら、「やめる！」って聞こえたわよ、私にも。聞き違いだったのね。

(アの1とアの2で笑う)

アの1 あのさあ、用事を忘れちゃったから行ってもいいや。

イの2 じゃあ、失礼します。(そそくさと立ち去る)

アの2 「失礼します」だって。おつかしい！(二人で笑う)

(今度はパの2がやってくる)

パの2 (アの1・アの2に気付いて、おどおどしながら近づく)

(足を出して引つける)

パの2 あっ！(もっていた数冊のマンガをばさばさと落とす)

アの2 痛っ！イタタタツ！

パの2 えっ？でもあなたが足を…。

アの2 何？あたしがどうかしたって言うの？

パの2 いえっ、ごめんなさい。(マンガを拾おうとする)

アの2 (すばやく全部拾って)はい！落ちたわよ。

パの2 あっ、どうもすみません。(予想外の親切な態度にびっくりする)

アの2 どういたしまして。(1冊手に持っている)

パの2 あの、もう1冊…。

アの2 あら、これ？拾ってあげた1割よ。もらっておくわ。

パの2 そんなあ…。(思わず)自分で足をかけておいて、ひどい！

アの2 (急にすごんで)何か言った?私がひどい?

パの2 えっ、いえ、その…どうぞ。

アの2 「どうぞ」じゃないでしょ。私の足にぶつかって、しかも本まで捨ててもらっ

たお礼なんだから、普通は「ありがとうございます。これはほんのお礼です」

って頭を下げるんですよ!

パの2 (唇をかみしめて)あ、ありがとうございます。こ、これはほんのお礼です。

アの2 あらそう。でもやっぱり私こんなものいらないわ。

パの2 (一瞬期待して手を伸ばしかけたときに)

(「ビリッ」と破いて捨てる)行きましょ。

アの2 (アの1「バーカ!」アの2と二人で笑いながら立ち去る)

パの2 (道ばたで取り残される)

(転 換)

(アの1とアの2がたむろしている。イの1とイの2がやってくる)

おやおや、今日はお揃いで。弱虫同士どちらまで行くのかな。

うるさい。

アの1 (急に凄んで)なんだと!今日はやけに態度がでかいじゃないか!えっ!

こっちがおとなしくしているからって、つけあがるんじゃないぞ。

アの2 相手が誰だかわかっていったんの?

イの2 アホのア組のお二人じゃないのか？

アの1 なんだと、このや……。(「野郎」の「ろう」を飲み込んでしまう)

イの1 (ポケツトから、将棋の駒の形の「角」を取り出し、アの1に突きつける)

アの1 い、いつの間に角兵器を……。

イの2 角兵器の恐ろしさは、お前たちが一番よく知っているんだろう？えっ？

アの1 わ、わかった。今まで俺が悪かったよ。謝る。ごめん。

イの1 「ごめん」？そんな謝り方あったっけなあ？

アの1 す、すみません。

イの1 これからは対等な組だから、よろしくな。

(イの1、イの2は笑いながら立ち去る)

アの1 う、うわさは本当だったんだ。

アの2 ということは……。

(パの1とパの2がやってくる)

パの1 あら、ア組のお二人さんお揃いでどうかしたの。

アの2 あ、あなたたちこそどうしたの。

パの2 ちよつと、お二人を探していたのよ。

パの1 今までずいぶんお世話になってきたから、見せておこうと思っただけ。

アの1

ま、まさか…。

パの2

そう、そのまさかのものよ。

パの1

（ポケッツトから角兵器を取り出しながら）よくもこの子にひどいことを

してくれたわね。今日はとりあえず、今までのことを謝ってもらおうと思っ

きたのよ。（角を突きつけて）さあ、早く謝りなさい。

ご、ごめんなさい。

アの2

「謝るっていうのは、頭を下げることよ」っていつか教えてくれたわね。

アの2

わ、わかったわよ。申しわけありませんでした。

パの1

そちらさんは？

アの1

悪かったよ。（頭を下げる）

（両者それぞれ立ち去る）

（一部始終を見ていた、にの1・2・3が出てくる）

にの1

とんでもないことになったわ。

にの2

これが、あなたのいう「平和のバランス」ね。

にの1

決して今までの状態がよかったわけじゃないんだけどね。

にの3

やっと思ひなが、少しずつ自分に正直になつてきたんだよ。

にの1

でも、このままだとどうなつてしまふの？

にの3

しばらくはお互いの力を探りあつて、そのうちに、角兵器という強力なものに

にの2

よつて、力のバランスが取れてくるんだらうね。

にの2

そうなるかどうか？

にの3

一歩間違えると、破滅への道をたどりかねない、危険な安定でね。

にの2

危険な安定か…。

にの1

誰かがバランスを崩したら、みんな破滅してしまう、危険な安定ね…。

(転換)

アの1

ちくしょう！イ組のやつら、角兵器を手に入れたからって、急にでかい態度を取りやがって。

アの2

あら、それだったらパ組も同じよ。なあに、さっきのあの態度は。許せない！

アの1

もともとは、俺たちア組だけが角兵器を持っていたのに、イ組もパ組も持つようになったとすると、今までのように俺たちのいいなり、ってわけにはいかな

アの2

いな。
角兵器の数や使い方では、まだまだ私たちア組のほうが上でしょ？一気にたた

アの1

きつぶすっていうのはどう？
何言っているんだよ。小さくても少なくとも、角兵器は角兵器なんだ。戦いと

アの2

なれば、こつちだってそれなりのダメージは覚悟しなくちゃいけない。

アの1

じゃあ、イ組にもパ組にも手出しできないってわけ？
そういうことになるな。

アの2

そんなあ。じゃあ私たちは、ほかの組と変わらなくなっちゃうじゃない！
まあそうあわてるな。まだ「に組」があるじゃないか。
に組？だってあそこは、けんか一つなくて団結がかたいから、いままで手を出

アの1 さないできたんじゃない！今から、手を出すわけ？

それがさあ、最近気付いたんだけど、に組の団結って案外にせ物っぽいんだよね。いつつも仲よさそうに見えるけど、お互い無理しているんじゃないかな。

アの2 無理しているって？

アの1 正直な気持ちを無理に押さえ込んでいていう感じかな。 〔 暗転 〕

〔 へに組の教室 平和な光景 ア組の二人が入ってくる チャイム 〕

アの4 よ、用がないのに、よその組に入っちゃいけないはずだけど…。

アの1 用があるから来たんだよ。なあ？

アの2 ええそうよ。それとも、ほかの組はいいけどア組の私たちは入っちゃいけない

とでも言うの？

アの4 べ、別にそんなこと言ってないよ。

アの1 ちよつと頼みがあつてね。

アの5 頼み？頼みって何だよ？（みんなが集まってくる）

アの4 ほかの組の俺たちに、何の頼みがあるって言うんだよ。

アの1 いや、たいしたことじゃないんだ。ただ、俺たちア組がイ組やパ組のやつらと

もめたときに、ア組の味方をしてくれたら助かるなあ、と思つてね。

アの1 何で私たちが、ア組の味方をしなくちゃいけないのよ！

にの2

そうよ！私たちの組には、けんかなんてほとんどないし、よその組とけんかするつもりもないの！

アの1

へえ、そうなんだ。仲良さそうに見えて、案外がたがたしているのかと思った。自分たちは気が付かないだけなんじゃないの？（2人して笑う）

にの2

な、なによ！いきなり入り込んできて、失礼なこと言わないでよ！

アの1

「私たちの平和」ねえ。

アの2

まあ、仲がよろしいこと。（アの1を見て）ねえ、また来ましょ。

アの1

そうだな、今日はこのくらいにしておこうか。（二人で立ち去る。）

にの4

やった！俺たちの団結力で、ア組を追い払った。

にの5

なんだかんと言つても、けんかもほとんどしないしな。

にの2

そうよ、仮にけんかしそうになつても、ちゃんと校則を守って友達のけんかをとめてるし、気持ちよく仲直りしているものね？

にの1

（つぶやくように）気持ちよくかどうかどうかは解らないけど……

にの3

あたしたちつて、そんなに仲のいい友達だったっけ？

にの4

なに言ってるんだよ！けんかも争いもないじゃないか

にの3

無理やり無くしたただけだよ！本当は納得していないのに、校則で決まっているから、仕方なくあきらめているだけじゃないか。

にの5

お前はそんなつもりでいたのかい？

にの4

まったく、チームワークを乱すやつは困るなあ。

にの3 まあ、せいぜい仲良しのフリをしているんだね。(立ち去る)

にの2 あんな人じゃないんだけどなあ…。

にの1 仲良しのフリかあ…。(暗転)

にの5 (次の日に組の教室 みんな楽しそうにしているア組の二人登場)

にの4 何度来ても同じだよ。俺たちはどこの組とも対立しないんだから。

にの4 俺たちを味方につけようとしてもムダだよ。

アの1 今日はお前たちには用はないの。ザコはどいていな。

にの5 ざ、ザコだつて!

にの4 俺たちにけんか売ってるのか!

アの2 あら、「仲良しに組」はけんかしないんじゃないんじやなかったの?

にの2 そうよ、相手にしないの!

アの1 そうそう。俺たちもザコは相手にしないの。今日はね、そちらの彼女に用が

アの2 あつてきたんだから。(にの3を指さす)

アの2 「仲良しに組」にも一人だけ骨のありそうなのがいたから、スカウトに来たつてわけ。

にの5 スカウトって、何のスカウトだよ。

アの1 生意気になってきたイ組やパ組とお話をするときの仲間だね。(腕を取る)

にの1 だめよ、行っちゃだめ!(にの3のもう一方の腕を取る。)

アの1 (ポケットから角兵器を取り出して)邪魔するんじゃないよ。引っ込んでな。

アの1 (みんな悲鳴をあげて引き下がる)

アの2 あら？「仲良しに組」なのに、だれも助けようとしはないの？まあ、に組の団結

にの1 ど、どうしよう。連れていかれちゃったよ。ねえ、何とかしてよ。

にの4 何とかついていわれても、向こうは角兵器をもっているんだぜ。

にの5 俺たちまで巻き込まれたらどうするんだよ。なあ。

にの2 校則第78条第7項に…。

「ケンカの現場に出会ったら、間に入って止めるか、すぐに先生に知らせること。何もしなかった時は、同罪とする。」ってあるじゃない！

にの1 だって先生いなかっただもん！

にの4 でもさっきのは「ケンカの現場」じゃないよ。暴力なんてなかったし。

にの5 それに、本人が何の抵抗もしていないんだから、俺たちが助ける必要もないよ。

にの1 みんなひどい！昨日までのあの言葉は、いったい何だったの！

にの2 そうよ、話が違うじゃない！

にの4 何言っているんだよ。それにそもそも、俺たちのチームワークを乱していたのはあいつ自身じゃないか。

にの5 そうだよ。俺たちの仲間であることを拒否したのは、あいつのほうじゃないか。

にの1 これが、うちの組のチームワークってわけ？なによ！こんなの「団結」でも

「チームワーク」でも何でもないわ。彼女の言う「仲良しのフリ」の言葉の

ほうがピツタリじゃない！ひどすぎるわ！（走り去る）

にの2 待って、待ってよ！（後を追っていく）

イの1 (イ組の二人が入ってくる)

悪いんだけどさあ、昼休みに校庭を使うの、遠慮してくれないかなあ。

イの4 えっ、何で俺たちが校庭を使っちゃいけないんだよ。

イの2 使っちゃいけないなんて誰も言っていないよ。ただ、遠慮してくれたら嬉しいなあ…って思っているだけだよ。

イの5 そんな乱暴な！今までみんな使っていたじゃないか。なんで急に？

イの1 ちよつと事情が変わってきたんだよ。なっ？

イの2 そう、事情がね。(ポケットから、角兵器をちらつと見せる)

イの4 か、角兵器…。

イの1 だからさあ、わかってくれた？俺たちの気持ち。

イの5 わ、わかったよ…。

イの2 あっそう？悪いねえ。角兵器はいいよ。何だか急に自分たちが強くなった気になるんだよなあ。

イの1 悔しかったら、に組も角兵器を作れば？ア組の態度もころつと変わるし、気分いいよ。

イの2 だめだよ。「仲良しに組」は平和を愛するんだから、角兵器なんてとんでもないよ、なあ。(笑いながら立ち去る)

イの5 (取り残されたに組の二人)

うちの組って本当に平和なの？こんな風に、よその組に好き勝手にされて、それで本当にいいのか？

にの4

俺、わからなくなってきたよ……。

（暗転）

キャスター

『突然キャスター登場 緊迫した様子で』

番組の途中ですが、ここで臨時ニュースをお伝えします。つい先ほど、

アメリカの旅客機がハイジャックされ、ニューヨークのナショナルセン
タービルに激突しました。爆発とその後の火災により、ビルは完全に倒壊し、
旅客機の乗員・乗客234名とあわせて、2000名を超す死者が出た模様
です。アメリカがリーダーシップを取っていた時代には、ある意味で安定し
ていた世界各国が、核兵器による危険なバランスに加え、テロという新たな
攻撃方法によって、さらに平和のバランスが大きく崩れようとしています。
いつ、どこで巻き込まれるかわからない、テロという新たな攻撃に世界中が
恐怖に包まれています……。

（アの1、アの2登場 にの3をみつけると）

アの1

なんだ、教室にいたのか。ずいぶん捜しちゃったよ。

アの2

本当。私たちを避けて、どこかに逃げ込んでいるかと思ったわ。

にの2

どうしてあなたたちから逃げなくちゃいけないのよ。

にの1

そうよ。ここから出ていくのは、あなたたちのほうよ。

（にの3は、思い詰めたように動かない）

アの1

まあまあ、そうムキになるなよ。同じ学年なんだし、もっとみんな仲よくしよ
うぜ。

アの2

そうそう。「平和を愛する仲良しに組」なんだから、もっとみんなと交流しな

くちや。ねえ？（イの1・2、パの1・2 相次いで登場）

イの1 俺もそう思うなあ。

パの1 賛成！さすがみんなのリーダー、ア組はいいこと言うわね。

イの2 うんうん、もつと交流を深めようぜ。

にの2 だれがア組なんかと！

パの2 あら、私たちも前はそう思っていたんだけど、つき合ってみると結構いい人た

ちよ、ねえ？

パの1 そうね、思っていたより優しいし、話がわかるしいい。

イの1 えっ、お前たちもそう思う？俺たちも最近ア組の良さがわかってきたんだ。

イの2 うん、この頃俺たちもア組と気が合うんだよなあ。（イの1 うなづく）

にの1 あなたたち、恥ずかしくないの？ついこの間まで、ア組にさんざんいじめられ

てたくせに、ちよつと自分たちが強くなつたからって急に態度変えちゃって！

今のあなたたちって、ア組とちつとも変わらないわよ！

イの2 そうかい？じゃあ、俺たちもずいぶん出世したもんだ。

パの2 あたしたちも立派になつたってわけね。

にの1 自分たちが落ちぶれたことに気付いていないの？

情けないわ。

パの1 あゝら、情けないのはどっちかしら。

イの1 浮いちゃっているのは「平和を愛する仲良しに組」だけだもんな。

にの4 ちよ、ちよつと待ってくれよ。別に、に組全員が同じ意見とは限らないんだ。

にの2

なによ、それどういうこと？

にの5

ア組や他の組と違って、場合によっては仲良くしてもいいかなあ、って思っている奴だっているっていうこと。

にの1

だれも仲良くしないって言っているわけじゃないわ。でもね、一方がもう一方を服従させるような付き合い方は、友達でも仲良しでもなんでもないとと思う。

にの2

そうよ。現にさつき校庭の使い方のことで、無理な要求を突きつけられたでしょう？

アの2

おやおや、仲間割れが始まっちゃった。

アの1

「平和を愛する仲良しに組」もたいしたことないねえ。

アの1

だれのせいだと思ってるのよ！もとはといえればみんなア組が悪いんでしょ！

アの2

なんで俺たちのせいなんだよ！俺たちは何も悪いことなんてしてないぜ。そうよ。それに、ついこの間までみんなそれなりに仲良くやっていたのに、その平和を乱したのはイ組やパ組なんだからね。

パの1

おいおい、俺たちはただ強くなるうと努力しただけだぜ。ア組が角や力で攻めてくるならば、俺たちも角で対抗するまでよ！

パの2

あら、私たちが違って別に悪いことなんてしてないわ。少しだけ考えを変えたけれどね。

パの2

少しだけって、私たちにあれこれ無理を言ってきた、それが少しだけ？
なによ、その言い方！何か文句あるっていうの？
あるから言っているんでしよう？（言い合いになる）

にの3

(叫ぶ) もうやめろっ！

(みんなびつくりしてにの3を見る)

にの3

もうこんな思いはたくさんだ！

アの1

やっとア組の仲間になる決心がついたかい。

アの2

そうよね。もうこんな組に見切りをつけて、ア組の仲間になっちゃいなさいよ。

にの3

こんな組でも、あたしに取っっちゃ大切な組なんだ。

イの2

よその組の言いなりでもか？

パの2

よその組に寝返っても？

にの3

もう、こんな状態は嫌なんだ！

にの5

いまさらどういう方法があるっていうんだよ！

にの3

こうするんだよ！(ポケットからテル型の角を取り出す)

(一同悲鳴やうめき声をあげながら下がる)

アの1

か、角兵器：いつのまに…。

イの1

しかも、俺たちのよりもはるかに大型の！

イの2

しかも、最新式のパカパカ・テル型！

にの5

そうか、俺たちも角やテルで対抗すれば良かったんだよな！

にの4

この手があつたか！さすがだよな。

アの2

ま、まさかこんなところで使わないわよね？

パの1

みんなと同じで、持っていることに意味があるんだものね。

パの2

でも、全部の組が角を持っている今、何の意味があるの？

アの1 これからは、より破壊力のある、より正確に命中する角を、よりたくさん持つ組が優位に立つんだよ。
 アの2 そして、実際には使えない角よりも、角以外の力が見直されてくるってわけ。
 パの2 そうなると、またア組の言いなりになってしまふの？
 パの1 前と同じなんて、そんなのひどい！
 アの1 同じじゃないよ。今や「仲良しに組」も俺たちア組の配下ってわけさ。
 アの2 そう、つまりみんな平等ってわけよ。
 への4 どこが平等なんだよ！俺たちにとつては前よりもひどくなるんじゃないか！
 への5 前と同じ、に組だけ独立させてくれよ。
 イの1 なに調子いいこといってんだよ！
 パの2 そうよ自分たちばかり！
 への5 だってもともと俺たちは団結して、身を守ってきたわけだし…。
 への1 その団結を壊したのはだれなのよ！
 への2 そうよ、あなたたちさえ裏切らなかつたら、こんなことにならなかつたのに…。
 への3 (大声で怒鳴る)うるさい！(一同静まる)
 誰が使わないって言ったよ！(一同息をのむ)
 誰がテル攻撃をしないって言ったんだよ！
 イの2 だって、角を使ってしまったら、すべての組はメチャメチャになってしまふん

だぞ……。しかも最新式のテル攻撃だなんて！

パの1 角の威力をわかっているの？

わかっているさ！

イの1 わかっている、どうして使うなんて言えるんだよ！

パの2 本当はわかっているじゃないの？

（への3が角を高く振り上げる。一同悲鳴を上げて一歩下がる）

待てよ！組を守るために使って、組を滅ぼしてしまったら、何にもならないじゃないか！

への3 誰が組を守るため、って言ったよ！

えっ、組のためじゃないのか？

への3 こんな組、守る意味なんてこれぼっちもありやしないうよ！

それはないだろう？同じ仲間じゃないか。

への3 誰が仲間なんだよ！あたしがア組のやつらにつきまとわれても、誰も何もして

くれなかったじゃない！第一、自分たちの組の平和だけ愛して、イ組やパ組のことをちっとも考えてなかったじゃないか！

への2 そんなあ……。への1に向かつて）ねえ、黙っていないで何とか言ってみよ！

彼女の言う通りかもしれないわ。

（一同驚く）

への1 私たちの組って、本当に平和だったの？

への2 えっ、どういうこと？

にの4 けんかだってほとんどなかったし…。

にの5 校則だって守ってきたし…。

にの1 心から、納得して、校則を守ってきたかしら？

にの2 そう言われると困るけど…。

にの3 あたしたちは、小さいときから人と競争ばかりさせられながら、表面はいつも

アの1 「仲良く、平等に、譲り合って」でしょ？

アの1 だから、だんだんストレスがたまってきた、俺たちみたいに「いじめ」で気を

紛らわせているんだよ。

パの2 いじめられる方は、さらに弱いものをいじめること、気を紛らわせるのよ。

パの2 さらに弱いものは、小さい動物や、物に当たることでバランスを取っているの

かもしれない。

パの1 強い相手に対しても、見つからないようにこっそりと靴を隠したりして仕返し

をして、スツとする。

イの1 いたずらメールもそうかもしれない。いじめられている相手に見つからずに、

仕返しができる…。

にの2 それじゃあまるで、「仲良く、平等に、譲り合って」生きてきたことが悪いみ

たいじゃないの！そんなの寂しすぎる！

にの1 基本的には間違っていないのよ。でもね、人と人が競うことは悪いことじゃな

くて、お互いを成長させるってことも忘れちゃいけないわ。さまざま物差し

で競い合い、お互いの得意なものを認め合うことでバランスが取れるはずなの

に、一方では正しい競争をやめさせ、もう一方では一面的な「学力」という物差しだけで人や学校を決めつける風潮を作り出してしまったのよ。

「力」や「経済力」という物差しもね。つまり、あたしたちも社会も世界も、学力や力や経済力という一面的な物差しで、その人やその学校やその国の価値を決めつけてきたってこと。

その考えには私も賛成だけど、それと、いまあなたが手に持っている角兵器とどういう関係があるの？それに、さっきあなたは、このに組が大切だって言ってたわよね。

ああ、言ったよ。
でもそのあとで「こんな組守る意味なんてこれっぽっちもない」とも言ったわ。よく覚えているね。

それで、結局その角兵器で、この組をどうしようとしているの？
この組は大切だけど、このままの姿で守る意味はないんだよ。

このままの姿でつて？
一度すべて壊して、新しく作り直すのさ。
壊してつて…まさか！
そのままさかだよ。このテル型の角兵器で、この組の、いや、全ての組のうそや

いじめやごまかしを破壊して、一からやり直すんだ。
わかったわ。そういうことなら、私も賛成する。
バカなこととはやめる！やめるんだ！

パの2

正気じゃないわ！誰か、誰か止めて！

アの2

新型の角を使ったらどうなってしまうか知ってるの？

にの3

知ってるさ。この、最新式テル型角兵器はね、あたしたち人間の脳の中にある、

人と争いを起こす部分を破壊するんだ。

アの1

まだ実験の段階で、俺たち人間にどんな副作用が出るかわかってないんだぞ！

イの2

そんな兵器を使うなんて、バカげてる！

にの3

同じ言葉を、世界中の核保有国やテロをおこなっている国に言ってやるんだね。

五十九年前の原爆やベトナム戦争・湾岸戦争、そして9・11の悲劇を知って

いながら、いまだに核や軍備拡大やテロにこだわり続けているバカげた国に。

パの1

国と組とでは事情が違うでしょう？

にの3

どこが違うんだよ！学校が社会の縮図だというなら、組は国の縮図じゃない

か！五十九年前から何度も何度も同じ過ちを繰り返している国があるのなら、

それより先にあたしが組で試してみても、世界中にそのおろかさを見せつけてや

るよ！暴力からは何も生まれてこない！悲しみや憎しみが生まれて、次の暴力

は生まれても、それ以上のものは何も生まれてこないことを！

にの4

俺たちはどうなってしまうんだ！

にの3

わからない。ただ一つだけ言えることは、あと二・三十年もすれば嫌でもあた

したちがこの世の中心になる、ってことね。その時になつて「こんな世の

中、嫌だ！」「何でこんな世の中にしたんだ！」「なんていつても間に合わない

から、今からできることをしてやるんだ。組のことも、国のことも、結局は誰

にの5

かが動かして、誰かが変えていくんだからね。それがあたしだっていいわけだ。あたしがおろかなことをすることで、国が救われるなら、それも悪くない。
(にの3が角を振り上げる)
やめる！

(「やめてーっ！」「やめろーっ！」など にの1以外の全員の悲鳴！)

(組中パニツクの中、衝撃音：まぶしい閃光)

(客席に向かつてまぶしい光と暗いシルエット)

(明転 将棋をしている二人を囲んで、みんな楽しそうに応援している)

将棋 B

そろそろ勝負がつきそうだな。

将棋 A

それはこつちのせりふですよ、先輩。

将棋 B

何を言っているやら……。何しろこつちには(ポケットから角を取り出しなが

ら)角が一枚、(もう一枚取り出して)二枚、二枚もあるんだからね。それに比べて、そちらは歩が二枚。勝負あったね、新入部員！

将棋 A

角が何枚あっても、まっすぐ前へは進めないんですよ、先輩！

将棋 B

(歩を一枚取り出して)一步(もう一枚取り出して)一步、前へ歩いて行くしかないってことに、そろそろ気づいてくださいな、っと。はい、王手！！

(ストップモーションと静かに青いシルエット)

（音楽が流れ、全員ゆっくりとばらばらに立つ）

キャスター 私たちの身の回りで起こっている出来事は、

アの2 たとえそれが組に関わることも、

イの1 たとえそれが国に関わることも、

イの2 同じ将棋盤の上であることには変わりがなく、

パの1 角張った角（かど）を何度削り取られても、

パの2 国と組とで格の違いを見せつけられても、

にの4 四角四面の舞台の上で、角張って生きていかなくてはいけない。

にの5 なぜなら、二十年・三十年後の世の中の核になっているのは、

将棋A とにもかくにもこの私たちなのであって、

将棋B だからこそ、今のこの若者の時期を見つめ直し、

にの2 今、目の前のこの問題を、体当たりで解決し、

アの1 今、目の前のこの組を、精一杯改革し、

にの3 今、目の前のこの国を、心の底から考える…

にの1 今、目の前の私たちは、角を捨てる核になる！

全員 角を捨てる核になる！！

「幕」